

## 第47回品質保証検討会 議事録

1.日時：平成29年3月1日（水）13時30分～16時30分

2.場所：（一社）日本電気協会 D会議室

3.出席者：（敬称略，順不同）

○出席委員：鈴木主査(中部電力)，大谷(三菱電機)，岡部(IHI)，工藤(東芝)，千葉(日立GE)，松山(三菱重工業)，水嶋(東北電力)，辰巳(北陸電力)，新井(三菱原子燃料)，若山(日本原燃)，鳥海(GNF-J)，村上(JANSI)，渡邊邦(JANSI)，小松(電源開発) 計14名

○代理委員：西田(東京電力HD・小林代理)，野村(JAEA・山内代理)，奈良(北海道電力・島津代理)，小林(原燃工・植木代理) 計4名  
(小計18名)

○常時参加者：首藤(電源開発)，西山(東芝)，渡邊雅(原子力規制庁) 計3名

○オブザーバ：串間(三菱電機)，米田(LRQA) 計2名

○欠席委員：秋吉副主査(関西電力)，新田(富士電機)，濱田(九州電力)，石川(四国電力)，牧(リサイクル燃料貯蔵)，山田(中国電力)，志賀(日本原子力発電)

○事務局：美馬，大村(日本電気協会) 計2名  
(出席者合計25名)

4. 配付資料

資料47-1 品質保証検討会委員名簿

資料47-2 第46回品質保証検討会議事録（案）

資料47-3-1 原子力安全のためのマネジメントシステム規程(JEAC4111-2013)の適用指針 [JEAG4121-2015]正誤表・・・原子力規格委員会での修正の経緯（説明用）

資料47-3-2 原子力安全のためのマネジメントシステム規程(JEAC4111-2013)の適用指針 [JEAG4121-2015]正誤表・・・ホームページ掲載用

資料47-4 JEAG4121附属書-1改定作業の状況について

資料47-5 JEAC4111改定基本方針検討タスク設置趣意書

資料47-6-1 平成28年度JEAC4111講習会の実施結果について（報告）

資料47-6-2 JEAC4111講習会等 平成28年度実績および平成29年度計画（案）

資料47-7 原子力規格委員会 品質保証分科会 平成29年度活動計画（案）

参考資料-1 誤記発見時の対応手続きの明確化について（案）

・・・第53回基本方針策定タスク（平成29年2月27日）資料

参考資料-2 原子力規格委員会 規格策定手引き（平成28年12月13日改定）

参考資料-3 電子ファイル(DVD)の預託・保管に関する運営規約（平成28年12月13日制定）

参考資料-4 第4回 日本電気協会 原子力規格委員会シンポジウム プログラム（案）

参考資料-5 民間規格に関する話題

5. 議事

(1) 代理出席委員の承認，定足数の確認，委員等の交代

事務局から，代理出席者4名の紹介があり，主査により承認された。事務局から，代理を含め委員25名中18名が出席であり，議案決議に必要な委員数（委員の3分の2以上＝17名以上が出席）を満たしている旨報告された。また，事務局から，オブザーバ2名を紹介し，主査の承認を得た。

(2) 配付資料の確認

事務局から、本日の配付資料を説明し、各自確認した。

(3) 検討会委員交代、常時出席者の承認

事務局から、資料 47-1 に基づき、委員の交代について紹介があり、分科会への上程が挙手にて承認された。

小林委員（東京電力 HD）→西田新委員候補（同左）

大谷委員（三菱電機）→串間新委員候補（同左）＊

＊資料 47-1 には記載されていないが、追加して 3 月 9 日分科会に付議する予定。

また、本日オブザーバ出席の米田氏の、次回以降の常時参加者としての出席について、挙手にて承認された

(3) 前回議事録の確認

資料 47-2 第 46 回議事録(案)の概要を主査から説明し、挙手にて承認された。

(4) JEAG4121-2015 の誤記チェック対応について

主査から、資料 47-3-1, 3-2 に基づき、JEAG4121-2015 の誤記チェック対応について説明があった。

<主な検討・意見・コメント>

- ・昨年 6 月の規格委員会に報告したが内容が分からないということで、9 月に修正して出し直した。9 月の規格委員会ではグレード区分を「活用上問題ない」と判断するにも係わらず、正誤表を発行することについてコメントがあり再報告となった。
- ・12 月規格委員会では、グレードは従来の③から②「活用上問題あり」に変更したが、説明を聞かないと内容が分からないと言われ、規格委員会委員長預かりとして、資料を再度修正することとなった。
- ・最終版は資料 47-3 の P3, 4 を修正し、委員等の了解を得た。分科会で了解を得た後、ホームページに掲載する。
- ・主査から、規格作りにおいては策定側の理屈だけではなく、一般の利用者に分かりやすいように記述することが基本であることの注意喚起があった。
- ・資料 47-3-2 の分科会上程が、挙手にて承認された。

(5) JEAG4121 附属書-1 改定作業の状況について

検討WG主査から、資料47-4に基づき改定作業の状況について説明があった。

<主な意見・コメント>

- ・資料② P13 7.5.1.1 b) 文書管理に関する手順、記録の管理に関する手順→文書化した情報の管理に関する手順、P14 不適合製品の管理→不適合の管理  
→拝承。本文と合わせる方向で修正する。
- ・添付-1 で検討済となっている課題のうち、ファイナルドラフトになっていないものについては、それぞれの課題について、上程にあたりステータスを整理する必要がある。  
→拝承。
- ・9月の規格委員会に上程を目指すとする、その前の8月上旬には分科会での書面投票が必要である。6月の中間報告に向けて、検討会レベルでしっかり見ておく必要がある。今回は大改定でもあり、レビューをしたい。検討会委員は必須、常時参加者もそれぞれの目でレビューしていただきたい。期間は1カ月とする。

- ・正式に検討会レビューにかけることが挙手にて承認された。

#### (6)今後のJEAC4111改定の基本方針について

分科会幹事から、資料47-5に基づき、「JEAC4111改定基本方針検討タスク」の状況について説明があった。

- ・資料47-5は、昨年11月に分科会傘下にJEAC4111改定基本方針を検討するタスクを立ち上げることにについて書面審議した際の資料である。書面投票により了承された。
- ・4111の内容は技術基準に取り込まれたので、現状の4111には付加価値がない。要求事項に対する推奨事項、適切な例示であれば解説で記載する、そういう構成で付加価値があると、エンドースの対象になるのではないかという意見があった。
- ・明日、午前中タスクが開催される。我々の案を検討し、今後の議論に供したい。性能規定に対する仕様化で、どこまで具体化できるかというところが論点になる。
- ・タスクは「特定議題の論点整理」を行う場であり、決定は検討会、分科会で行う。

<主な検討・意見・コメント>

- ・タスクはオープンな場であり、議事録が確定すれば検討会、分科会に配付する。
  - ・ISOベースでJEACを作り、それに対し解説、例示を付ける構成としてきたが、それを変わるかどうかの議論がある。2003年以来の方針が変わる可能性がある。一方で作業量と得られる成果のバランスは気になるところ。
  - ・付加価値についてだが、要求事項の部分は技術基準とJEACはほぼ同等だが、福島以降の状況に合わせて様々な努力をして、今のJEAC、JEAGを刊行した。検討会委員の多くは、エンドースに関連して前回検討会の議事録にあるような言われ方には納得していない。品証技術基準のあり方など、現状に満足してはいないが、専門家集団としてやるべきことはやっていく。3年後に検査制度が変わり、我々がどう関わるかが課題。
  - ・最新知見の反映は求められていて、ISO 9001:2015、GSR Part2は盛り込まなければならない。2013年版に足しこんだとき、解説、例示をどこまでつけるかというところが焦点になる。規制がこれであれば良いというのを視野に入れるのも大事な要素で、タスクの中で、どこまで解説をつければ両者で歩み寄れるのかは焦点である。今後、JEAG4121のあり方も問われる。
  - ・エンドースについては同様に考える。基本は民間として何をスタンダードと考えるか、ということであるが、エンドースされないと現実的に使われないであろう。エンドースは最終目標ではないが、含むべき価値である。
  - ・2つのポイントがある。①解説の扱い。解説は説明であり規格の一部ではないので、要求事項にはならない。これは大原則である。②新知見を全て取り込むか、採用すべきかどうかをどう判断するか。新知見であっても取り込む必要がなければ取り込まない。
  - ・新知見についての電気協会の考え方について、網羅的にならないように検討会からコメントを出し、記載を見直してもらった。
- 品証からかなりご意見をいただいたので見直している、と事務局から報告があった。

#### (7)JEAC4111講習会の平成28年度実績および平成29年度計画（案）

普及・促進チームリーダーから、資料47-6-1に基づき講習会実績について説明があった。

<主な意見・コメント>

- ・コースⅢは28名参加で1Gr4～5名、6グループで実施した。6つのグループで6名参加、36名としていたが、1グループ5名程度の方がいい線であった。
- ・コースⅡで大阪会場は100名定員に対して36名であった。初めて講師をやっていた人もいて、経験者を増やすという点では良かったのではないかと。ただ、あと20名くらいの出席は欲しかった。

続いて、資料47-6-2に基づき、講習会計画について、以下の説明とコメントがあった。

- ・平成29年度予定：コースⅡは東京会場10月に1回、コースⅣワークショップは11月に1回、コースⅢは1月に1回
- ・4121附属書-1の改定は早くても12月だが、3月に遅れる可能性があるため、今年のコースⅢは例年通りの内容とし、4121附属書-1の改定については、発刊後、特別講習会を実施することを検討する。
- ・コースⅢは、30年度は新しいもので実施する。今年度末から作業を行う。
- ・コースⅢ、Ⅳに関し、中條先生のご都合を確認いただきたい。
- ・コースⅡの具体的計画では以下を考慮する。火原協大会が10月12、13日。また、移動を考慮し、月曜日を避ける。リハーサル（青森の日本原燃で実施することを検討中）に関連し、9月13～15日原子力学会イベント、9月3～6日機械学会イベントがある。
- ・コースⅡの会場としては、品川シーズンテラスは場所も食事場所も良かったが、大阪でやらないなら収容人数の大きい中央大学駿河台記念館を候補にする。
- ・資料47-6-2で、ワークショップ検討タスクが8月とされているが、7月とされたい。
- ・資料47-6-1及び6-2は分科会に上げることとする。

#### (8)平成29年度品質保証分科会活動計画（案）について

分科会幹事から、資料47-7に基づき、品質保証分科会平成29年度活動計画（案）について説明があった。

<主な意見・コメント>

- ・JEAC4111改定基本方針策定タスク→JEAC4111改定基本方針検討タスク
- ・平成29年度計画／中長期の(3)のなお書きについては、「なお、JEAG4121～の発行を受けて、これに係る特別講習会を計画する」と修正する。
- ・資料47-7を修正の上分科会に上程することが、挙手にて承認された。

#### (9)その他

##### 1)誤記発見時の対応手続きの明確化について

事務局から、参考資料-1に基づき、誤記発見時の対応手続きの明確化について紹介があった。また、参考資料-2は、昨年12月13日原子力規格委員会にて承認、改定された規格作成の手引きであり、検討会のご意見を反映している。

<主な意見・コメント>

- ・参考資料-1はほぼこれで改定されるのか。
- 規格委員会に上程して決める前段階にある。
- ・3点質問、確認したい。①発行済規格は規程、指針、技術資料は同じ重みで扱うのか。②グレード分け（①②③）は検討会で実施とされているが、どのようなプロセスで判断するのか。③公表について、エンドースされた規格は対応するとしているが、エンドースされていないがエンドース検討中のものはどうするのか。
- そこまで議論していない。この場で回答することではないので質問があったことは留めておく。規程、指針等で扱いを分けるのではなく、総括的に「規格等」で表している。
- ・公表、非公表が3学協会で違っているのはあまり良くないと思う。
- 機械学会では、①②③グレード分けではなく、重要か重要でないかになっている。
- ・重要か重要でないかの判断は曖昧だ。
- このように内容に多少違いはあるが、電気協会も機械学会に倣って明確化（明文化）する方向で検討している。今後お知らせできることがあれば、情報連携する。

- ・参考資料-2 規格作成手引きはHPに記載されている。
- ・品証から意見を出して直った部分は、例えば、P1の目的、P2の3.1.7項等。今回誤記の問題があったので、大分構成が変わっている。規格作成時のチェック項目に検討会の意見が反映された。
- ・チェックシートの活用がP24に記載されている。誤記防止チェックは、中身に関わるので分科会審議前に、文章・用語等チェックは、規格委員会審議前および発刊前に実施して記録に残すということ。
- ・編集委員会のようなものを作って、見る目を変えた方が良い。
- ・規格のことが分っている違う人の目で見るとというのがチェックリストの趣旨。

## 2)電子ファイルの預託・保管に関する運営規約

事務局から、参考資料-3に基づき、電子ファイルの預託・保管に関する運営規約について説明があった。

- ・中身は問わないので、重要なものをDVD2枚にして事務局に持ち込んでいただければ、適正に保管しますということ。
- ・1月から運用開始し、今のところ1件お預かりしている。

<主な意見・コメント>

- ・インターネットを使ってやる方法はセキュリティの問題等があってできなかった。
  - ・存在を知らないと使用できないので、最新のDVDリストを配付していただきたい。
- 検討会、分科会等正式な会議体の資料、議事録は、これまでも事務局で紙やデータの形で保管されている。作業用データや国際規格の調査等、分科会および検討会で継承されていないものについて、事務局にご要望をいただいた。
- ・ミニマムは検討会以上の資料で、トレースできる。検討チームで使った根拠資料はそのチームしか分からないので、一度整理した方が良い。3年位でメンバーが代わったりするから、技術継承の意味もある。

## 3)第4回 日本電気協会 原子力規格委員会シンポジウムプログラム (案)

事務局から、参考資料-4に基づき、シンポジウムについて紹介があった。

6月14日 (水) 13:15～17:00 中央大学駿河台記念館 2階281号教室

テーマ「検査制度の見直しと学協会規格の役割、課題」 (仮)

- ・平成28年度功労賞に、品質保証分科会から、秋吉検討会副主査を推薦していることの報告があった。

## 4)退任ご挨拶

大谷委員から退任のご挨拶があった。

## 5)その他

主査から、安全確保における品質保証・安全文化の位置付け、検査制度の見直し、および参考資料-5に基づく説明があった。

以上